

番号	著者名	書名	出版年	出版年 (文庫 化)	出版社	価格	本文 ページ数	コメント	どこから 読んでも 全くOK	図版 多数
1-1	ジャレド・ ダイヤモンド	銃・病原菌・鉄 上	2000		草思社	1900	301	人類の文明の始まりを地球規模でとらえるという大技をみごとに成功させた記念碑的達成。大陸がタテに長い横に長い、そんな小さな偶然が人類の発展史の根幹を定める！ あざやかな洞察。		
1-2	ジャレド・ ダイヤモンド	銃・病原菌・鉄 下	2000		草思社	1900	318	—		
2	ブライアン・ フェイガン	古代文明と 気候大変動	2005		河出書房新 社	2400	341	静かに溢れた北アメリカの湖が海流を変え、ヨーロッパに大干魃を起こし、農耕文明の端緒を開く。環境変動のなかで人類の営みをとらえる試み先史編。原題：The Long Summer		
3	ブライアン・ フェイガン	歴史を変えた 気候大変動	2001		河出書房新 社	2400	294	ほんのわずかの気温変化がヨーロッパを凍えさせ、農民の反乱を、革命の時代を連れてきた。環境変動のなかで人類の営みをとらえる試み歴史時代編。原題：The Little Ice Age		
4	コンラート・ シュピンドラー	5000年前の男	1998		文藝春秋	650	375	折れた肋骨、毛皮の帽子、小麦の粒に未完成の弓矢。アルプス山中に倒れた彼はどこへ行こうとしていたのか？		
5	岡村秀典	夏王朝	2003	2007	講談社学術 文庫	1050	308	殷よりさらに古い4000年前の王朝の姿が、ここまで分かってきた。鼎・足付きの土器・占いの骨から復元されてゆく生活と文化伝播のありよう。		
6	ジョン・ チャドウィック	線文字B	1996		学藝書林	1553	110	3500年前の文字をどうやって解読したか。粘土板に刻まれた古代ギリシャの物品リスト。ぶどう酒に雌ヤギ、あの顔文字は何？ 暗号解読に挑戦。		
7-1	塩野七生	ローマ人の物語 ハンニバル戦記3[上]	1993	2002	新潮文庫	362	140	カンヌからザマへ。戦術の天才が、ついにその牙を折られる時が来る。敵はスキピオ、「あらゆる彼の行為は完璧な論理的帰結を持っていた」と称された男。		
7-2	塩野七生	ローマ人の物語 ハンニバル戦記4[中]	1993	2002	新潮文庫	438	248	—		
7-3	塩野七生	ローマ人の物語 ハンニバル戦記5[下]	1993	2002	新潮文庫	400	193	—		
8	塩野七生	ローマ世界の終焉	2006		新潮社	3000	396	蛮族に侵食されて大帝国が滅びてゆく。その滅びの運命にどう抗うかで、男の真価が定まるのではないか。軍総司令官スティリコの生涯をいとおしむようにたどる作家のまなざしは、惚れた男へと向けるそのような。		

9	本村凌二	地中海世界と ローマ帝国	2007		講談社	2300	343	塩野さんが各駅停車なら、こちらは特急。大帝国が勃興してから滅ぶまで、多士済々の登場人物を手際よく出し入れしつつ、帝国滅亡の原因にまで説き及ぶ。		
10	池上 俊一	動物裁判	1990		講談社	735	234	ブタの絞首刑、ハエの破門。西洋中世の大まじめな裁判劇に立ち会って見えてくる彼らの自然観と正義観。		
11	ミシェル・ パストゥロー	王を殺した豚 王が愛した象	2003		筑摩書房	2400	266	たとえば蜜蜂はナポレオンが選んだフランスの象徴。なぜなら……動物ごとに織り込まれた歴史の記憶を読み解く。で、一番人気はやっぱり象！		
12	ミシェル・ パストゥロー	縞模様の歴史	1993	2004	白水社	900	141	シマシマは悪魔のしるし。だから囚人服はシマシマ。でも、シマシマは衛生のしるしにもなった。だからパジャマやシャツはシマシマ。		
13	ジョセフ・ギース フランシス・ ギース	中世ヨーロッパの 城の生活	2005		講談社 学術文庫	1000	286	チェプストー城、ウェールズ。1日だけ滞在してみませんか。楽士の奏でるハーブとともにシカ肉料理を召し上がったあとは頭巾鬼で遊んで。明日は鷹狩りへ。		
14	ジョセフ・ギース フランシス・ ギース	中世ヨーロッパの 都市の生活	2006		講談社 学術文庫	1100	315	トロワ1250年、フランス。都市の原型に滞在してみませんか。チュニック姿の職人に白い被り物の主婦たち、向こうに大聖堂。		
15	阿部 謹也	ハーメルンの笛吹き男	1974	1988	筑摩書房	756	319	グリム童話として語られたお話は史上たしかに起きたできごとだった。130人の子供たちの失踪事件の真相は？ すとんと一つの答えを出さないことで、かえって謎解きの興味が深まるところが通好み。		
16	アルフレッド・ W・クロスビー	数量化革命	2003		紀伊国屋書店	3360	352	数を数えるって何？ アラビア数字、時計に地図、遠近法に楽譜……いろんな近代的発明の根っこで起きたもののみかた 大転換をつかまえる。それはまさに 理系 なるものが誕生した瞬間なのだ。14世紀初めのヨーロッパ。		
17	応地利明	「世界地図」の誕生	2007		日本経済新聞出版社	2400	257	仏教は逆三角形、キリスト教はTO、中国は四角でイスラムは球……地図の形の話です。中世の地図を4つ取り上げて、緻密に分析しつつそれぞれの世界観へアプローチ。ワールドワイドな視野の広がりと分かりやすく誠実な語り口に引き込まれる。		
18	チャールズ C. マン	1491 先コロンブス期アメリカ 大陸をめぐる新発見	2007		NHK出版	3200	610	愕然の三部構成 常識を覆して超スリリング 愕然その1 コロンブス以前のアメリカ大陸には1億人もの人びとが暮らしていた 滅ぼしたのは病原菌 愕然その2 南北アメリカ大陸には2万年前から人が住み、ヨーロッパよりも早く文明が栄えていた 愕然その3 原住民たちは自らの手で積極的に環境を改変した アマゾンの密林も人の手で作られたもの		

19	スティーヴン・ハウストン	マヤ文字	1996		学藝書林	1553	116	見ているだけで心浮き立つ丸っこくて愛敬のある絵文字。なのに、超ムズカシイ！古代ギリシャの『線文字B』と比較しつつ読むと、アメリカ大陸の文明が旧大陸からいかに隔絶した価値観のもとにあるかが痛感できる。		
20	ヨハン・ラインハルト	インカに眠る氷の少女	2007		二見書房	2200	318	フワニータ。アンデスの雪の中から掘り出された少女は500年前のインカの生け贄。髪も表情も完全な彼女を生々しすぎると感じてしまうのは、歴史というものを過去の霧のかなたに、ぼんやり見たいと願っている私たちの身勝手のせいだろう。そんな甘さを覆される。		
21	エイミー・B・グリーンフィールド	完璧な赤	2006		早川書房	2000	321	スペイン経由で輸入するしかなかった謎の染料コチニール。まさか、その正体はサボテンに付く小さな小さな虫だったなんて！「色」の獲得に生涯を賭けた男たちにヨーロッパの強さを見た。		
22	川北 稔	砂糖の世界史	1996		岩波書店	208	208	アジアのお茶とカリブの砂糖がイギリスで出会って世界が変わる。砂糖を基軸にコンパクトにまとめて便利だが、みんな白人が悪いのさ、という岩波流善悪史観にやや疑問も沸く。		
23	安達正勝	死刑執行人サンソン	2003		集英社	700	237	極限の体験をした者が遭遇した底知れぬ苦悩。ギロチンを仕事場とする男は敬愛するフランス国王を我が手にかける。		
24	アルベール・ロビダ	絵で見るパリモードの歴史	2007		講談社 学術文庫	1150	332	直径2メートルのパニエでスカートをふくらませたあとはエスカレートするいっぽう。頭上高々と帆船を編み上げたり、リボンと羽根飾りてんこ盛りのボンネットの貴婦人たち。ちょっと着てみたい……かも。		
25	アルフレッド・フラン克蘭	排出する都市パリ泥・ごみ・汚臭と疫病の時代	2007		悠書館	2200	273	非キレイゴトのバリ。人がいっぱい集まれば、ゴミは増えるし、伝染病は流行るし、墓地だって必要。悪臭ふんぶんたるセーヌ川。人々はどう戦ってきたのか。ナマの当事者証言の重み。		
26	井野瀬久美恵	大英帝国という経験	2007		講談社	2300	362	植民地アメリカを喪って大打撃のはずなのに、そのあと世界制覇を成し遂げ得た奇跡。うねりの波間に浮かぶアイルランド貴族のフローラやアフリカ奴隷のサラ、そしてもちろんクイーン・ヴィクトリア。大英帝国万華鏡。		
27	ジョン・テレン	トラファルガル海戦	1979	2004改 変	原書房	1800	294	ネルソン提督の最大の仕事は敵フランス艦隊の居場所を捕捉すること。果たして敵はエジプトか、はたまた大西洋の彼方なのか。行動範囲に情報網が追いつかない時代特有の右往左往の海戦ドラマ。		

28	ヨアヒム・フェスト	ヒトラー 最後の12日間	2005		岩波書店	1900	242	史実を掘り起こした長めの章とそれを考察した短い章を交互に配置して、とある巨大な世界の崩壊の原因へと降りてゆく。ヒトラー＝大悪人と単純に塗り潰して満足する歴史観が、60年を経て、ようやく超えられようとしている。		
29	ロバート・カーソ	シャドウ・ダイバー	2005		早川書房	2200	495	潜る。不安定な装具に身を預け、おのれの体力と判断力と強運だけを信じて、ひたすら潜る。そうやって深海のUボートの謎を解き明かしてみせた男たち。		
30	高木徹	戦争広告代理店	2002		講談社	1800	304	世論は善悪をハッキリ決めたがる。バルカンの小国ボスニアは、アメリカの広告代理店の力を借りて、敵ユーゴスラビアを悪役に仕立てることに成功する。ほんとうの悪者はいったい誰？		
31	松本仁一	カラシニコフ	2004		朝日新聞社	1400	257	今、アフリカはどうなっているのか。子供でも扱える銃の普及は、崩壊した社会の暴力を加速する。「植民地のほうが良かった」		
32	ジェームズ・R・チャイルズ	最悪の事故がおこるまで人は何をしていたのか	2006		草思社	2300	420	圧力逃し弁だ！ 最後に気づいた男がスリーマイル島の原発事故を救った。計器の針を揺らすわずかな徴候から真相を探りあてようとする努力は、歴史家の営みにも似て。		
33	ジム・ワイヤー & ケヴィン・フリン	9.11 生死を分けた102分	2005		文藝春秋	1800	358	いったい何が起きたのか、誰にも分からない大混乱のなか、100階建てのツインタワーから逃げるための15000人の戦いが始まる。数百名の証言で織り上げた、あの瞬間。		
34	海野一隆	地図に見る日本	1999		大修館書店	2600	194	半分だけだったり逆立ちしてたり、奇想天外な日本認識コレクション。すべて見開きの右が地図、左がコンパクトな説明なので、展覧会気分で見回れる。なぜか近代になって正確になるほど、つまらなく見えてくるから不思議。		
35	鬼頭 宏	人口から読む日本の歴史	1983		講談社学術文庫	960	283	3000万人、平均余命30年、それが江戸。都市は巨大な人口調節機構。吸収しては殺すアリジゴク。たんとした描写が恐ろしい。		
36	網野善彦	日本の歴史をよみなおす	1991	2005	ちくま学芸文庫	1200	398	日本史学界を襲った激震いまだ去らず。農民中心史観を廃し、「非農業民」という視点を核にすえて、中世史を中心に日本史全体の読み方をガラガラとひっくりかえしてしまった巨大な震源地のエッセンス。		
37	長野仁・東昇	戦国時代のハラノムシ	2007		国書刊行会	1000	97	戦国時代、病気は虫の形をしていた。鍼(はり)という武器をかざして奇天烈なモンスターに立ち向かった人々の心意気を感じつつ、とりあえず愛敬たっぷりのこいつらに爆笑。		

38	太田尚樹	ヨーロッパに消えた サムライたち	1999	2007	ちくま文庫	780	316	昔、支倉常長という侍がいた。仙台からメキシコを経てスペインへ。主君に命じられて大航海を敢行した。苦勞は実らなかった。しかしスペインには一行の子孫と信ずるハボン姓の人びとが今も暮らす。		
39	千葉正樹	江戸城が消えていく	2007		吉川弘文館	1800	252	「絵」と「図」というキーワードで江戸の切絵図＆名所図会の変化を追うと……ふたつの変化が一致していないところがおもしろい。		
40	三浦宏	桶屋一代 江戸を復元する	2002		筑摩書房	1900	207	ミニチュアで細かく細かく復元された江戸の町。お風呂屋さんに屋台に木戸番。作り手さん自身がその暮らし方を案内してくれる贅沢三昧。		
41	金森敦子	“きよのさん。”と歩く 江戸六百里	2006		バジリコ 株式会社	1800	338	きよのさん無敵。大金持ちで太っ腹。ご一緒に日光・江戸、そして京都をめぐる贅沢三昧の旅にどうぞ。		
42	磯田道史	武士の家計簿	2003		新潮新書	680	203	埃まみれの古文書から微細にあぶり出される武士家族の収入と支出。維新を乗り切ったつましい暮らし。		
43	藤森照信	明治の東京計画	1982	2004	岩波現代文 庫	1200	382	「このまま崩れてしまうのだろうか」が冒頭のじつに印象深い一行。御一新で雑草だらけの田舎に帰するはずだった江戸を煉瓦の街へ、さらに「帝都」へと転生させた先駆者たち。		
44	ハーバード・G・ ポンティング	英国人写真家の 見た明治日本	1988	2005	講談社学術 文庫	1100	312	異文化の眼だから、そして写真家の眼だから、100年前の日本の姿をありありと映し出す。そのあたかな視線がフジヤマのような「風景」だけでなく、ゲイシャのような「人」にまでしっかり届いているのがうれしい。		
45-1	今和次郎	新版大東京案内 上		2001	ちくま学芸文 庫	1000	319	考現学というひとつの学問をひとりで立てちゃったスゴい人がスゴい視線で昭和4年の東京をくまなく案内しつくす。フィールドワークのお手本満載。		
45-2	今和次郎	新版大東京案内 下		2001	ちくま学芸文 庫	1200	359	—		
46	根本圭助 編	小松崎茂 昭和の東京	2005		ちくま文庫	1000	205	看板好きだったんですね。街並みを写しつつ、つい看板に目が行ったのは同業者意識か？ ていねいなデッサンに導かれての浅草や銀座のレトロ散歩。全編ほとんど絵。		
47	三島靖	木村伊兵衛と 土門拳	1995	2004	平凡社 ライブラリー	1400	323	ふたり並べてみたのがいい。ひとりだったら神様のように平伏して拝むしかないけれど、超一流の、でも違うもの、時として対立すらしたものを右と左に並べて見比べることで、写真にこもっている魂の読み解き方が、少し分かってくる。		

48	佐野真一	旅する巨人 宮本常一と渋沢敬三	1996		文藝春秋	1748	350	民俗学という新しい学問を開いた人、そしてそれを支えた人。偉人なんかじゃない。ぶつかりながら、もがきながら、達成した傷だらけの記念碑。		
49	木下直之	私の城下町 天守閣から見える戦後の日本	2007		筑摩書房	2800	353	過去の一大記念碑お城。古くさいなあ、と思いきや、現実の中にどすんと居座って現代と丁々発止斬り結んでいる。あっちこっちの珍風景。		
50	中村良夫	湿地転生の記 風景学の挑戦	2007		岩波書店	2500	248	「都市のこの記憶喪失ぶりはほとんど狂気といえる」——現状への憤懣をぶつけつつ、おのが実践の足跡を熱く語る。風景学の先駆者にして社会工学科の大先輩の言、心して聞くべし。		